

議事録 概要
第6回 市民と市長の対話ひろば 〜もりりと語ろう、宝塚市の未来〜 テーマ：建て替えがせまる、宝塚市立病院の未来について
日時：令和7年8月5日（火） 午後2時～午後4時 場所：西谷会館 参加者：27名 市出席者：森市長、企画経営部市立病院経営改革担当－羽田部長、君田次長、黒木課長 市立病院経営統括部 榎本次長
《市長のテーマ説明》 1 はじめに ・今回のテーマは「市立病院とその周辺機能のあり方」。 ・医師である立場から、医療・福祉に深い関心がある。 2 宝塚市立病院の現状と課題 ・築41年の老朽施設で、狭く機能的に限界がある。 ・救急医療やがん治療に力を入れており、24時間365日の救急体制、がん診療拠点としても評価されている。 ・市立伊丹病院との連携により、出産は伊丹側が担う体制。 ・赤字経営の課題があったが、近年改善傾向。 3 医療・福祉・介護・保健の連携の必要性 ・高齢化社会において、医療・介護・保健・福祉の連携が必須。 ・これまで制度上分断されていたが、住民にとっては一体的に扱うべき領域。 ・予防と治療の連携、集団予防から個別予防へのシフトが求められている。 4 周辺施設との連携 ・ステップハウス 先駆的な介護施設。老朽化も進み、今後の活用と医療との連携が課題。 ・健康センター 主に市の健診事業を担うが、より医療との連携や予防医療を意識した再編が必要。 ・子ども発達支援センター 障害や発達に課題のある子どもを支援する重要施設。療育・医療・教育の連携について検討中。 ・国民健康保険診療所 医療過疎地域における重要な診療所。歯科医療や住民との関係性も深く、遠隔診療の活用を視野に入れている。

5 市立病院の建て替え計画

- ・現在地での建て替えを基本方針とし、新病院は第一駐車場の敷地に建設予定。
- ・完成後に既存病棟を段階的に解体又は活用。
- ・病院は24時間体制であるため、改修しながらの運用は難しい。
- ・一部の新しい棟（がんセンターなど）は活用継続を想定。

6 病院経営の状況

- ・令和6年度の決算見込み（正式発表は市議会の審議を経た秋予定）。
- ・総収益は約135億円で総支出は約137億円。
- ・医療費の多くは人件費が占めるが、日本全体では先進国の中でも低水準。
- ・近隣の市立病院と比較した場合、宝塚市立病院の経営状況は悪くはない。

7 今後の進め方

- ・市民・専門家・関係者を交えた懇話会を設置し、方向性を検討。
- ・物価高騰の影響もあり、早期着工・効率的な建設が求められる。
- ・単なる病院建設ではなく、医療・保健・福祉・介護の一体的なシステム構築を目指す。

8 まとめ

- ・宝塚市の医療・福祉体制は、他市に誇れる部分が多い。
- ・今後は施設の老朽化に対応しつつ、予防から治療までを見据えた体制づくりを進める。
- ・市民の意見を取り入れながら、段階的かつ現実的に病院整備と連携強化を進めていきたい。

《対話》

1 参加者【診療所の医師確保について】

- ・ボランティア食堂で、熱中症で退院した一人暮らしの方をサポートしている。
- ・診療所は午後からだったが、医師に頼み点滴で回復できた。市長が診療所に力を入れていると聞き、感謝を伝えたかった。

➡ 市長

- ・診療所の医師を現在も探しており、専門医よりは広く診られる医師が必要と考えている。
- ・小児や高齢者にも対応できる人を探し中。自身のネットワークを使い全力で取り組む。

2 参加者【寄付金と診療所について】

- ・前市長時代に得た寄付金の使い道について知りたい。

- ・国保診療所の診療内容に疑問。専門医不在で診療濃度が薄く、診療所は場所があるだけで、患者の満足度が低いと感じる。

- ・糖尿病専門医が週1回来る程度で十分なのか。

➡ 市長

- ・寄付者からはバリアフリーで障碍者に優しい設計にするよう申し出があったためそれに沿った方針で、寄付金は国の補助金と組み合わせて最大限効果的に使う予定。

- ・診療所は幅広く浅く患者を診る場所であり、専門性の深さとは両立しにくい。

- ・初期診療（ゲートキーパー役）として患者を判断し、必要に応じて大きな病院へ紹介する仕組みを目指す。

- ・医師確保は難しい問題だが、現実に合わせて形で日常診療を続けることが重要。

3 参加者【高齢化地域における医療体制と行政の取り組みについて】

- ・市長の病院についての説明で理解できた。とても良い会だった。

- ・自身の体験として、伊丹市民病院で膵臓がんの手術を受ける予定だったが、主治医が倒れ中止に。優秀な医師がいなくなるのは困るので、宝塚市は医師の管理をしっかりとしてほしい。

- ・宝塚市と西谷地域の高齢化の差が大きい。今後どう対応するのか。

- ・高齢化は前から分かっていた問題。国も対応が甘いと感じる。対策はしっかり行ってほしい。

➡ 市長

- ・高齢化による社会保障費の増加と、人口減による税収減が財政課題。医療費は高齢化だけでなく、医療技術の進化によっても増える。新技術の影響の方が大きい。

- ・西谷のような人口密度の低い地域でも、十分に成り立つ都市は世界に多くある。

- ・市民の方々の知恵を借りて宝塚市を良くしたい。

4 参加者【地域の高齢化・草刈り問題・看護学校について】

- ・地域（西谷）では高齢化により草刈りなどの作業が困難になっており、コミュニティ維持が物理的に難しくなっている。地域のお祭りなど文化活動も人手不足で継続が困難になりつつある。

- ・草刈りをイベント化して家族で参加できる形にするのが良いのではないか。

- ・宝塚市立の看護学校について、地元定着の人材育成に有用であり、費用面の負担はあるが継続を検討してほしい。

➡ 市長

- ・人手不足への対応策は「機械化」または「外部人材の活用」の2択。市として就労支援プログラムなどを通じた人手確保を模索していく。

- ・アイデアに感謝したい。
- ・看護学校については、運営に年間約 1 億円の費用がかかり赤字だが、人材育成や地域定着の効果も大きいと、市民の意見を聞きながら赤字を減らしていく方向で検討していく方針。

5 参加者【市立病院の建て替えについて】

- ・病院の利用者として、基本構想・設計などの時期を知りたい。
- ・緑地と園芸療法への提案。園芸のまち宝塚にふさわしく、癒しのある緑地や庭を取り入れた設計を希望する。

➡ 市長

- ・医療に加えて癒しの空間づくりも重要。今後市民の意見をききながら考えていきたい。
- ・病院のハード面だけでなく、使い方や環境も含めて一緒に考えていきたい。

➡ 担当職員

- ・基本構想は既に終わっており、基本計画は策定中。緑地帯は本市の景観計画の基準もあり、配慮しながら考えていきたい。

6 参加者【病院の立地・アクセスの悪さについて】

- ・山手台から市立病院へのアクセスが悪く、通院しづらい。駅直結の施設（例：ソリオ）へのアクセスの方が便利。
- ・駐車場の使いにくさや道路の入り組みも大きな課題だと思う。
- ・新病院は、アクセスの良さや雰囲気、医師の質も含め、市民が「行きたくなる病院」にしてほしい。

➡ 市長

- ・アクセスの課題については以前から認識しており、公共交通や駐車場整備も含め改善を検討中。
- ・今後の建て替えでは、利便性と居心地のよさを重視した病院づくりを目指す。

7 参加者【建物の省エネ・設計について】

- ・新病院の計画段階であることを踏まえ、気候変動による猛暑対策として建物の断熱性やエネルギー効率を重視すべき。三田市庁舎での外断熱方式が有効だった事例を紹介。
- ・初期コストだけでなくランニングコストも考慮を。
- ・高すぎる天井は冷暖房効率が悪く、健康や快適性にも影響するため、専門的視点での設計を求める。

➡ 市長

- ・自身も高天井設計の非効率性を実感している。
- ・新技術の導入は取捨選択しつつ、中長期的に市民負担の少ない建物を目指す。

- ・体育館エアコン設置の流れも踏まえ、建築思想の見直しが必要。
- ・気候問題は設計思想にも関わる重要課題であり、今後も専門知見を活かして適切に進めたい。

8 参加者【患者・家族にやさしい病院づくりについて】

- ・夫の病気を通じて複数の病院を経験し、病院選びや家族の負担の大きさを実感した。
- ・遠方の病院通院の大変さから、病院の立地の重要性を痛感した。
- ・市民病院や阪大病院での工夫やボランティアの活動に感動する一方、敷地内の景観管理に課題を感じ、専任担当者を配置してはどうか。
- ・患者や家族に優しい設計・運営を市民病院にも期待したい。

➡ 市長

- ・市民の体験や他病院の事例を参考に、持続可能で安心できる病院づくりを重視する。
- ・過去に自身が在籍した施設における過剰投資の反省から、本市では借金を残さず本質的な医療サービスを優先したい。
- ・市民の声を反映し、慎重かつ前向きに新病院計画を進めていく方針。

9 参加者【駐車場・アクセス環境について】

- ・国立病院に通院しており、駐車場の混雑で40分以上かかることも。
- ・高齢者や一人で通う患者にとって大きな負担であり、新市民病院でも同様の事態を懸念。駐車場が不足すれば、通院自体が困難になる恐れがある。

➡ 市長

- ・駐車場は重要だが、コストとのバランスが課題である。
- ・車に頼らないアクセス手段の整備も検討しつつ、車利用者にも配慮した使いやすい駐車場を工夫する必要がある。
- ・将来世代への負担を抑えつつ、利便性とコストの両立を目指す。

10 参加者【病院名、西谷地区の今後について】

- ・病院の建て替えは大きな前進。寄付者への敬意として病院名変更の検討はしているか。
- ・西谷地区の今後の方向性（都市計画や地域活性化）についての考えを知りたい。

➡ 市長

- ・病院名は寄付していただいた方への感謝の気持ちを込めて請願があり、議会で審議中。市民と建てた病院としての位置づけを大切にしたい。
- ・西谷については、住民と意見交換を重ねながら、持続可能な地域づくりを進める。押し付けではなく、共に考えながら、教育・観光など多面的に検討していく。

11 参加者【医療機器について】

- ・がんセンターは比較的新しく、高額機器も導入されているが、建て替え後も活用されるのか。

➡ 市長

- ・がんセンター部分は引き続き使用する予定。
- ・建物・設備ともに新しく、状態も良好なため、新病院と接続しながら有効活用したい。
- ・詳細は今後の設計・調整によるが、既存施設の活かし方も重要な検討項目である。

《まとめ》

市長

- ・西谷の国保診療所は重要拠点として維持していきたい。
- ・市立病院と連携し、遠隔診療なども活用しながら地域医療を充実させる構想。無理に集約するのではなく、地域の実情に合った形で支援を考えている。
- ・次回の開催は11月予定（9月は議会对応のため休止）。11月のテーマは行政改革、福祉の体制についての議論を予定。
- ・今後も住民の参加・協力をお願いしたい。